

<p>子どもたち</p> <h1>あいどる</h1>	<h2>一五号</h2>	発行 社会福祉法人 路交館広報部
		発行責任者 尾 埜 健 二
		編 集 あいどる編集委員会(長島・三木)
		〒533-0023 大阪市東淀川区東淡路2-7-5
		TEL06-6321-3201 FAX06-6321-2977
	ホームページアドレス https://www.rokoukan.or.jp	
	掲載の写真はアンケートに基づき掲載しています。	



「障がい」児共同保育50周年記念大会に寄せて

2024年は元日から大きな災害があり、重苦しい雰囲気の中で始まりました。しかし災害に対する人々の動きは東日本大震災の時とはずいぶん違うように感じます。周囲の反応を気にしてやみくもに自粛するのではなく、被災地の方たちに対して本当に役に立てることは何か？を考えて行動しているように思います。

1月7日、「障がい」児共同保育50周年記念大会が行われました。企画、運営したのは50年前には生まれてもいなかった新しい世代の職員たちが中心です。元聖愛園園長である野島千恵子氏から50年の歴史が語られ、現場の職員たちからは自分自身にとっての「障がい」児共同保育が語られました。路交館に関心を寄せてくださっている学識者の方々からも、多くの応援メッセージとこれからの課題についてのご意見をいただいています。

50年という年月は決して平坦なものではなく、何度も岐路に立たされ、そのたびに集まって語り合い、

対立する意見をぶつけ合い、共に考え共に悩み、どちらの道に進むのか自分たちで選択してきました。選ばれた道はいつも正しいわけではありません。間違った道に進んでしまった時には引き返すこともあったでしょうし、引き返すことができないこともありました。道を間違えたことに気が付いたときに、そこからどう進んでいくのか再び選択に迫られます。50年の歩みだけでなく、私たちの仕事、暮らしはそんな試行錯誤の繰り返しです。

「障がい」児共同保育を実践してきた先人たちからの学びを生かしながらも、新たな岐路に立たされた時には自分たちで道を選ばなければなりません。「これまで」を学びにしつつも、「これから」を作っていくのは今現場にいる自分たちだという、保育・支援の現場で日々尽力されている職員たちからの強い意志を感じました。今後も彼らとともに歩みながら、応援していきたいと思います。

社会福祉法人 路交館 理事長 尾 埜 健 二

「障がい」児共同保育50周年記念大会を終えて

2024年1月7日（日）に大阪市中央公会堂にて、「障がい」児共同保育50周年記念大会を無事終えることができました。

今回、この記念大会を迎えるにあたり、2021年からプロジェクト委員会を立ち上げて話を進めてきました。この2年間、どのようなテーマにするのかで紆余曲折ありましたが、実行委員としてぶれなかったことは「現場の職員が元気になってもらえたら」という思いでした。そこは一度もぶれることなく、その中でどのような話なら良いのかをいろいろな方々と話す機会をもらいました。

「障がい」児共同保育は、障がい児を保育士が現場で保育するだけではなく、「共同」（行政・家族・職員）と共に障がい児たち自身の居場所作りをすることに加えて、もちろん子供たち・当事者同士の共同も大切だというお話も聞けました。なかなか言葉の意味を深く考えてやっていた自分にとっては、そのような意味があったのだと今回の委員をやることによって、改めて学ばせてもらいました。



記念大会の内容としては、来賓代表で保護者でもある国重徹氏に力強い応援のメッセージをいただき、教育・保育担当参事「元聖愛園園長」野島先生に50年の大まかな経過報告をしてもらい、そこから職員3名（北丘聖愛園・ウィリッシュ・淡路聖愛園）の実践報告、その後教授を交えての意見交換会を実施し、現在、路交館がやっていることが、どのようなことなのかを第三者の方にもご意見をもらうことで、改めて自分たちがやっている「障がい」児共同保育がどのような取り組みなのかを感じてもらえたらと思いました。

私自身、今回のこの記念大会に向けて、最初は少ない人数でのプロジェクト委員会を発足してやっていましたが、会議をやっていく中でも煮詰まることも多く、そこから法人の主任の方たちを巻き込んでいろいろな人に助けをもらいながら少しずつ形になっていきました。ここでも発信していくことの大事さ、助けてと言える関係性がなければ、今回の記念大会は実行することが出来なかったと思います。

最後に今回の大会を終えて改めて感じたのは、障がいがあるなしに関わらず、小さいころから一緒に育っていくことで、それが当たり前を感じるようになるということでした。保護者の方に対しても支援学校に行くのが当たり前、就職するなんて出来ないと当然のように思わず、そこを地域の学校に行くこと就職することに対して応援していくことでそれが当たり前になっていくのではないかと。障がい者も地域に出て

知ってもらうことで、それが当たり前の社会になっていくのではないかと感じました。また、路交館がやっているこの「障がい」児共同保育をいろいろなところに発信をして知ってもらうことが、今後の路交館としての課題でもあるのだなと実感したので、それはこれからより一層力を入れて外部へ発信していけたらと思います。



（文責：「障がい」児共同保育50周年記念大会実行委員会 事務局長 丸山 順也）

【発題者の感想】



記念大会の中で、自分が思う共同保育は『他者への信頼感を育てる事』と話しました。今回の発表自体がその実践だったように思います。言葉になっていなかった自分の共同保育を、北丘の運営メンバーや2名の編集メンバーと話し合う中で形にする事ができました。今回の50周年記念大会は自分にとっても1つの節目になった気がします。

（幼保連携型 認定こども園 北丘聖愛園 副園長 渡 健友）



『本人主体と集団の中で共に生きる支援』をテーマに具体的な話を発表しようと考えましたが、私の力不足もあり、今では反省すべきところがいっぱいです。ただ、今日もウィリッシュのメンバー、職員は、この理念のもとに元気に働く場であるウィリッシュに通っています。今回の発表でウィリッシュの取り組んできたことが少しでも多くの人に知っていただき、多くの障がい者支援の現場に広がることを願っています。

（ウィリッシュ主任 松阪 直哉）



今回、エピソードをまとめていくにあたり、実は・・・向き合えず終えてしまったことや、途中で放り出してしまった案件もたくさん出てきて、それを聖愛園の職員に聞いてもらい、やっと少しだけ向き合えたような気持ちにさせてもらいました。仲間と、自分はどう思うのか？を話し合い聞き合って、自分たちがやっているおもしろい保育や支援を、まずは近くの地域から繋げていき、少しずつ社会へと広がっていくことを皆さんとなら、やっていける！と感じることが出来ました。

（幼保連携型 認定こども園 あすなる 副園長 碩 由香）

幼保連携型認定こども園 聖愛園(1・2歳児クラス)

年齢別活動では、1歳児(はと)2歳児(ほし)に分かれて週に1,2回過ごしています。ほし活動では、最後のがんばりまん遠足に向けて、3回の歩きこみをお友だちみんなで力を合わせて頑張りました。子どもたちがワクワク感が持てるように、プーさんの仲間を探す取り組みを行いました☆遠足当日は、日の出南公園までお友だちと手を繋ぎながら、元気いっぱい「ファイト!!ピ!!ピ!!」と声掛けをしたり、「おにぎり弁当の為にがんばろう〜!」とお友だちと一緒に声を掛け合ったりしながらみんなで最後まで歩き切ることが出来ました。



文責：聖愛園1・2歳児担任 堤 朱里

児童発達支援 どんぐり

どんぐりは、幼保連携型認定こども園聖愛園と併設されていて、主に発達がゆっくりな子どもたちが幼稚園などの大きな集団に入る前に通う児童発達支援事業所です。少人数の集団で過ごし、人との関わりの中での成長や、友だちとのつながりを大切にしています。

そんな子どもたち同士の関わりや、意識合っているところを見もらう為に、1月13日(土)にプチ発表会をしました。当日は、保護

者が目の前で見ていたり、いつもと違う雰囲気でしたが、子どもたちは、友だちがしているから…と真似っこしたり、保護者の手を引っぱって一緒に参加する姿がありました。時には観客席にファンサービスをしに行ったり、部屋を探索してみたり、それぞれが楽しんでいる姿を見ることができました。

最後には親子体操も行い、「親も一緒に楽しませていただきました。」「自由に走り回っている様子がほんわかしました」などの感想もいただきました。

文責：児童発達支援 どんぐり メ田 悠子



バスに乗ってしゃっぽーっ!!



ちよっとドキドキするな…

幼保連携型認定こども園 豊新聖愛園・北丘聖愛園

～大阪総合保育大学にて保育について講義をしました～

12月中旬、大阪総合保育大学で保育を学ぶ学生さんたちに向けて豊新と北丘合同で講義をしました。豊新は全国でも珍しい夜間保育について写真を交えながら話しました。夜間保育を必要としている保護者の存在、それを支えている職員、そして異年齢の友だちや大人と一緒に夜も明るく楽しく安心して過ごさせている子どもたちの様子を伝えました。北丘は、乳児保育について話し、友だちと共感する事や、トラブルを経験することで育つ思いやりの気持ちを0・1・2歳の保育の中で大切にしていると、動画を見せながら伝えました。



講義を担当した職員たちにとって、手探りな中からのスタートでした。しかし、準備を進めていく中で自分たちが大事にしていること・伝えたいことが明確になっていき、それを言葉にして自分たちの声で伝えることができました。学生さんに伝える側として参加しましたが、結果的には自分たちも大きな学びとなった機会でした。今回の機会を通して、園は違っていても子ども同士のつながりを大切にしている等、同じ法人・同じ思いでいることが改めて感じられました。それぞれが得た発見や思いを今後も深めていきたいと思っています。



文責：北丘聖愛園0歳児クラス担当 明智 小百合

生活介護 ウィリッシュ

ウィリッシュでは、11月16日～17日に約4年ぶりにウィリッシュ旅行（淡路島）に行くことができました。久しぶりの旅行なのでテンやわんやの状態での旅行になりましたが、利用者みなさんの経験値のおかげで、何事も無く無事に帰ってくることができました。一日目の旅館では各班で出し物（ダンス等）をして夜まで楽しむことができました。二日目は淡路ワールドパークオノコロへ行き、各班に分かれてアトラクションを楽しみました。久しぶりの旅行をみんなで楽しめてよかったです♪

文責：支援員 三島 幸輝



グループホーム(ういるハウス淡路①)

町内会の夜警にグループホームの利用者さんと参加

東淀川区にお住まいの方で年末に「火の用心!!」という声掛けを聞かれた方はいるでしょうか。私はこれまで、一度も呼びかける側で参加したことはなく、イメージと言えば、自宅で年末のテレビ番組なんかを見ている時に(外から聞こえてくるなあ)程度でした。

今回は、東淀川区の町内会様からのお声がけで、そんな「火の用心」でおなじみの『夜警』に二人の利用者さんと参加させていただいたお話です。

私は人生で初めての夜警だったのですが、グループホームの利用者さんは何度も経験があったようで、待機所で待っている時間も堂に入ったものでした。地域の方からも、ビールやおでん、おにぎり等、温かいおもてなしをいただいてから夜警へと出発しました。

夜警中、利用者さんは拍子木を鳴らす役をしていました。最初は全くタイミングが合わず、職員も周りの方に気を遣いながら「今や!」と声掛けしていました。2・3回かけて一緒にタイミングをそろえてからは、(ちょっと遅れているかな?)くらいで拍子木役をこなせていたように思います。

実際に地域の方と同じ時間を過ごす中で、発話のできない方が自分からコミュニケーションを取りに行く手段に限られるという部分は課題だなと感じました。一方で、「よく歩いているのを見かける」と言って頂き、少し驚いた場面もありました。利用者さんと地域の方とのコミュニケーションは決して多くはありませんでした。しかし、飲み物や食べ物を勧めていただいた際に、要る要らないのジェスチャーで反応したり、発話できる利用者さんは「おいしい」と感想を言ったりして、利用者さんの事を知っていただくきっかけになれたのではないかなと感じました。

私は路交館に入るまで、日常生活で障がいのある方とお会いすることはほとんどありませんでした。就業して実際にお会いするまで、どうコミュニケーションをとったらいいのか想像もつきませんでした。しかし、今回のような場に職員と利用者さんで積極的に出向くことで、『全然知らない』から『ちょっと話したことがある』くらいまで、認識を変えていけるのかなと感じました。

いきなりおしゃべりして協力して何かをするというのはもしかしたら難しいのかもしれませんが、今回のような小さな交流を増やすことでお互いに身近な人物になっていき、地域の一員として溶け込んでいけるのではないかなと感じました。

文責：グループホーム ういるハウス淡路① 世話人 三木 佑太



あしあと

1月

「障がい」児共同保育50周年記念大会(法人全体)
豊新聖愛園と桜の園の太鼓交流(豊新・桜の園)
プチ発表会(さくらんぼ)

1月・2月

お別れ遠足(聖愛園・北丘・豊新・ポプラ・さくらんぼ)
思い出旅行(つくしクラブ・杉の子クラブ)

2月

地域交流(桜の園・ういず守口・ういず滝井)

あしおと

3月

卒園式(聖愛園・豊新・北丘)
卒室式(どんぐり・つくしクラブ・杉の子クラブ
・豊新つくしクラブ・ポプラ・さくらんぼ)



★寄附のお願い★

当法人の保育・活動にご賛同・ご支援いただける法人・団体・個人の皆様からのご寄附の協力をお願いしています。お寄せいただいた寄附金は、各施設の施設・設備整備、借入金の返済等に使用させていただきます。皆様からの温かいご支援・ご援助を心からお願い申し上げます。

編集後記

皆様、いかがお過ごしでしょうか?路交館「あいどる」の151号発行となりました。今回は、「障がい」児共同保育50周年記念大会に關した記事をたくさん掲載しています。また、障がい系からグループホームの担当者も新しく編集に加わることとなりました。新しい担当者も加えて、より一層皆様へ様々な情報をお届けして参りますので、今後ともどうぞよろしくお祈りいたします。
担当：長島・三木